

03

箱根山：築山という視点場

（新宿区戸山）



都区内最高峰の箱根山（戸山公園）



箱根山頂上から（現在）



昭和34年当時の箱根山からの眺望
（『写真が語る新宿 今と昔』、新宿区、1984年）

口人がつくりだした都市展望台候補

戸山公園の箱根山、新宿区民ならば知らない人はいない、標高44mの都区内最高峰の「山」である。この「山」の起源は、尾張徳川家の下屋敷「戸山荘」時代に遡る。起源、そう箱根山は、大名庭園に築かれた人工の山である。

「戸山荘」は、実存の風景を尺度を縮めて模写する「縮景」という伝統的手法でつくられた庭園を有していたが、その東海道五十三次の縮景は、宿場町一つを丸ごと庭園内に再現するという極端な虚構性で知られていた。そして、虚構の宿場町＝偽小田原宿に対応して築かれたのが、この箱根山であった。大名屋敷の唯一の遺構が、この築山である箱根山なのだ。

さて、古い写真では、この箱根山の山頂から新宿のまちのパノラマ景観が見渡せたようだ。しかし、現在は、山を覆う桜などの樹林と、そして戸山ハイツ団地が二重にその眺めを遮っており、期待して登ったわりには、意外と見えるものは近く、少ない。

近年、都市再生の掛け声の中での大規模な再開発でびゅっと建った超高層ビルの最上階の展望コーナーが人気を博している。しかしどうだろう。都市の展望台は何も超高層でなくてもいいし、何もエレベーターで行くところでもなくていい。もっと身近で、一步一步確かめながら登るこうした築山であってもよいではないか。

視点場としての箱根山の再生に期待したい。